

Janm

JAPANESE AMERICAN NATIONAL MUSEUM

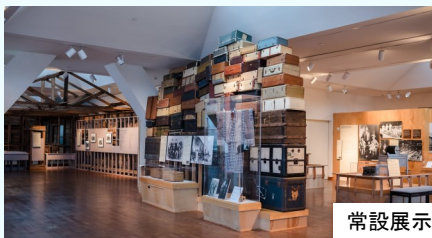
全米日系人博物館

全米日系人博物館 (JANM) は、ロサンゼルスにある、アメリカにおける日本人移民と日系アメリカ人の歴史を収集、保存、共有する博物館です。そのミッションは、アメリカの歴史の不可欠な一部として日系アメリカ人(以下、日系人)の物語を共有することにより、アメリカの民族的・文化的多様性への理解と認識を促進することにあります。

日系人の歴史は、19世紀後半の日本からアメリカへの移民とともに始まりました。彼らは厳しい人種差別の中でも懸命に働き、アメリカで新たなコミュニティを築きました。しかし第二次世界大戦で日米が開戦すると、日系人は日本人の祖先を持つことだけを理由に西海岸から立ち退かされ、強制収容所へと送られました。その苦難を乗り越え、戦後には生活とコミュニティを再建すると同時に、マイノリティに対する差別的な法律や習慣と闘い、より公正で民主的な社会を実現してきました。

しかし長年アメリカでは、日系人の歴史が言及されることは少なく、第二次大戦中に日系人が不当に強制収容されたことも、一般のアメリカ社会ではほとんど知られていませんでした。そこで自分たちの歴史が失われないようにと、日系人コミュニティの人々の手によって、1985年に全米で初めて日系人の歴史を伝える博物館「全米日系人博物館」が設立されました。1992年に一般に開館した後、これまで100展以上に上る展覧会を開催しており、うち40展は全米各地をはじめ日本や南米など世界各地を巡回しました。

年間10万人以上が訪れる展示に加えて、学校向けの教育ツアーや一般向けプログラムを開催しており、毎年2万人以上の生徒や学生が当館を訪れています。また、日系人の歴史を伝える所蔵コレクションは、写真や絵画、家具、生活用品など16万点以上に上り、日系人史に関するコレクションとしては世界最大規模を誇ります。また、当館はスミソニアン協会の公式加盟機関でもあります。



常設展示

当館で展示をしている日系人の歴史は、至極当たり前のように存在すると思われるかもしれませんが。しかしこの歴史は、その経験を語り残してきた人々、研究と教育を進めてきた人々、当館に寛大なご支援をくださった方々、博物館が位置する日本町であるリトル東京が失われないように

奔走してきた人々、リドレス運動(日系人の強制収容の歴史を正し、賠償を求める運動)を実現させた人々、それらを支えてきた数多くの一人ひとりがいて初めて存在しています。マイノリティの歴史は残そう語ろう学ぼうとする人がいなければ、いとも簡単に失われてしまうものです。

この強制収容や苛烈な人種差別など戦前の移民から始まる日系人の歴史は、戦後の移民や米国長期滞在者の皆さんにとっては直接関係のない歴史だと思われるかもしれませんが。しかし、こうした私たちより前にこの国で生きてきた人々の闘いが、多様性を理想とし、公正さを保障する法を持った社会を作ってきたのです。私たちが今立っている場所は、その歴史が築いてきた土台の上にあります。そして、私たち一人ひとりがいま紡いでいる社会が、これからの未来の土台となると当館は考えています。



外観

全米日系人博物館では、ロサンゼルスにある博物館における展示に加えて、[オンライン](#)でも展示やプログラムを実施しています。また当館のYouTubeチャンネルでは、当館が製作した日系人史に関するさまざまなドキュメンタリーもご紹介しています。第二次世界大戦中の日系人部隊「第442連隊戦闘団」による「テキサス失われた大隊」の救出など、テキサスともゆかりの深い日系人の歴史。ぜひヒューストンの皆様にも知っていただけたら嬉しく思います。

最後になりましたが、このたびヒューストンにて説明会を開催していただいた主目的は、この夏に一般公開する資金調達キャンペーンです。これから先の長い将来にわたって確実に日系人の歴史を伝えていくために、当館は6500万ドルのご寄付を募る資金調達キャンペーンを開始します。目的は4つあり、最も重要なものは日系人の歴史を伝える常設展示のリニューアルです。当館の設立から約40年間にいっそう多様化してきた日系人の歴史を捉えなおし、日本語の展示パネルや字幕も加えて、より多くの方に先人の活躍と公正さや多様性を学んでいただける場を生み出します。その他の3つの目的は、当館の展示とプログラムの全米および全世界での展開、今後も持続的な運営を続けていくための運用基金の拡充、一般運営資金の調達です。

キャンペーンの詳細は[ウェブサイト](#)をご覧ください。メール(mmiki@janm.org)またはお電話(310-634-9593)でお気軽にご連絡ください。日系人のレガシーをつなぎ、多様性と融和を推進し、より公正な未来を実現していくため、ぜひ皆様のお力をお貸しただけましたら幸いです。(全米日系人博物館、三木昌子)

ついてご説明いただきました。

説明会の後は、ピュッフエディナーとなり、出席者はパロウズ館長や三木ディレクターに質問をしたり、情報を交換したりして、博物館の意義についての理解を深めていました。



パロウズ館長と談笑する
早坂会長

2015年には、ヒューストンのホロコースト博物館の主催で、日系人収容所で作られた様々な生活用品や美術品の特別展が開催されました。アウシュビッツについては知っていても、第二次世界大戦中の日本人・日系人が、アメリカ国内ではどのような扱いを受けていたかは日本ではほとんど知られていません。日系人の歴史を知ること、現在アメリカに住む滞在・永住の日本人が安心して暮らせるのは、過去の日系人の苦勞と努力のおかげであることを改めて認識することになるでしょう。そういった学びの場のひとつとして、全米日系人博物館をご訪問いただければと思います。(在ヒューストン日本国総領事館)

過去にガルフストリームで紹介したヒューストンの日系人

	Dona Fujimoto Cole 2020年8月号 P.5 2020年9月号 P.4		Glen Gondo 2021年2月号 P.7 2021年3月号 P.11
--	---	--	--

全米日系人博物館についての説明会

6月20日(火)、在ヒューストン日本国総領事公邸に於いて、全米日系人博物館についての説明会及びレセプションが開催されました。

全米日系人博物館は、アメリカ国内唯一の全米を代表する日系人博物館で、カリフォルニア州ロサンゼルスのリトルトーキョーに位置しています。今回は、ロサンゼルスからアン・パロウズ館長と三木昌子渉外担当ディレクターがお越しくださいました。



出席者

はじめに、村林総領事は開会の挨拶において、今回の説明会の趣旨に触れ、「全米日系人博物館が日米両国の懸け橋のひとつであり、日米間の関係強化に大切な役目を果たしていることから、外務省としても積極的に支援してきた」と述べました。



パロウズ館長による紹介

続いてパロウズ館長から、パワーポイントを使った博物館の紹介と、今後の計画に